



柏陽中だより1月号

令和7年1月7日（火）
さいたま市立柏陽中学校
岩槻区大字真福寺454
電話 048(798)6655

《学校教育目標》温かい学校 喜びあふれる学校（・自ら学ぶ生徒 ・心豊かな生徒 ・粘り強い生徒）

新しい年を迎えて

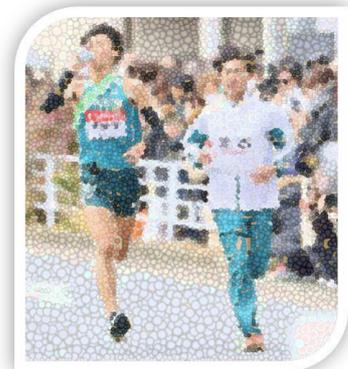
校長 亀井 隆司



年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げますとともに、日頃の本校教育へのご理解とご協力に心からお礼を申し上げ、併せて本年も変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、私事ではありますが2学期終業式を終えた次の日、朝から信じられないくらいのお寒い寒さを感じ、診察を受けたところインフルエンザと診断されてしまいました。そこから数日はあまりの高熱で起きているのか寝ているのか、夢なのか現実なのかよくわからない日々を過ごしました。そのため、毎年観戦しに行く高校バスケの集大成となるウインターカップに行くことができませんでした……。当たり前のことではありますが、健康であることの有難さをつくづく実感しました。

また、年末年始と言えば、高校生に限らず大学生、社会人などスポーツ中継がテレビなどでたくさん放映されます。その中でも私は箱根駅伝が大好きです。駅伝は言わずと知れたチームスポーツで、大学の意地とプライドをかけて、この日のために日々苦しい練習に耐えながら力をつけたチーム（大学）同士が競い合います。走っている選手たちのスピードや、1秒を削り出すための思いには毎回感動しますが、箱根駅伝の素晴らしさはその走る選手たちだけではありません。今回私が一番印象に残った場面は、第9区で首位を走っている青山学院大学のキャプテン田中選手（4年生）に給水係の片山さん（4年生）がドリンクを渡していた場面です。これまで苦楽を共にした片山さんに給水係をお願いした田中選手は、ドリンクを受け取るやいなや、2人で乾杯をするようなしぐさをして2人でドリンクを飲み始めました。苦しい駅伝競走の最中に並走している給水係と一緒に飲んで飲む場面は初めて見ましたので、びっくりすると同時にこれまでの2人の関係性や、どれほど共に苦労を重ねてきたのかが目に浮かぶようで、とてもほっこりした気持ちと併せて感銘を受けました。きっと給水係を務めた片山さんも自分が選手として箱根駅伝を走ることを夢見て入学し、日々苦しい練習を重ねてきたに違いありません。そういった苦しさを分かっているからこそ、田中選手は4年間で一度も選手として箱根駅伝を走れなかった片山さんに給水係を頼んだのでしょう。



私はこの大会を見て「今やるべきこと、自分にできることを精一杯頑張る」「自分を取り巻く周りの人たちの思いを大切にすることの大切さを感じました。今年1年間、そんな思いを持ちながら生活していきたいと考えています。生徒のみなさんも様々な事象からいろいろなことを感じ、自分の生活と重ね合わせて、新年を迎えたこの時期に自分の進むべき方向性について考えて、より良い1年を過ごしてもらいたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

